



北習カップミニ 2026 実施要項

北習カップ実行・運営委員会



1. 主催 北習志野フットボールクラブ
2. 目的 子供たちがゲームを通じてフェアプレーの精神を学び、また各チームとの交流を図りながらサッカーへの情熱を深める。
3. 日程

予選リーグ	2026 年 9 月 27 日 (日)
	2026 年 10 月 4 日 (日) ※予選リーグ予備日
準決勝リーグ	2026 年 10 月 4 日 (日)
	2026 年 10 月 24 日 (土) ※準決勝リーグ予備日
決勝トーナメント	2026 年 11 月 3 日 (火祝)
	2026 年 11 月 8 日 (日) ※決勝トーナメント予備日

荒天等により大会を延期する場合は、当日午前 6:30 までに連絡します。
※各会場へは直接ご連絡されない様、お願い申し上げます。
4. 会場 別途組み合わせとともにご連絡いたします。
ご協力いただけるチームには心より感謝申し上げます。
5. 参加条件
 - (1) 3 年生の部は小学校 3 年生以下、2 年生の部は 2 年生以下の児童とし、当該学年の選手が 1 名以上エントリーされていること。
 - (2) 選手のエントリーできるチームは一つとし、学年、チームを跨いで重複エントリーは認めない。
 - (3) スポーツ傷害保険に加入していること。
 - (4) 1 チームに 2 名以上の審判を帯同していること。(指導者と兼務可)
6. 表彰
 - チーム表彰** 3 位までのチームを表彰する。
(メダルは 10 個まで準備します。不足の場合は、追加分の費用をお支払いください。)
*前大会にてカップ等をお持ち帰りになられたチームは予選当日までにご返却ください。
 - 個人表彰** 大会 MVP (決勝トーナメント時に大会本部役員にて選出)
MIP 各チーム 2 名 (各チームにて選出)
7. 大会方式
 - (1) 予選リーグは、**各組 2 位以上**のチームが準決勝リーグに進出する。
順位の決定は勝ち点により行う。(勝ち 3 点、引き分け 1 点、負け 0 点)

勝ち点が同じ場合は、得失点差、総得点、対戦結果、PK 方式の順で決定する。

(2) 準決勝リーグは、**各組 1 位チーム**が決勝トーナメントに進出する。

順位の決定は予選リーグと同様。

(3) 決勝トーナメントについては、前後半終了時に同点の場合、3 人ずつの PK 戦で勝敗を決定する。

(4 人目以降はサドンデス) ※第 3 審判は本部より出す。

8. 試合方式

- ・ 6 人制ミニサッカー（うち 1 人はゴールキーパー） 大会規定の詳細は別紙
- ・ 試合時間は、10 分ハーフ（10－3－10 分）とする。 ※決勝トーナメントのみ、同点の場合は P.K.戦を行う

9. 参加費

参加 1 チームにつき **5,000 円**を予選リーグ当日に本部にてお支払ください。

また、事前配付のメンバー表を記入の上、当日ご提出ください。

10. その他諸注意

- ・ 会場内での注意事項
 - (1) 録画・ライブ配信などを企画されているチームは、特定者のみ閲覧可の状態にするなど、各チームの責任にて個人情報保護に配慮してください。これに関するトラブルについては大会運営委員会および当チームでは一切の責任を負いかねます。
 - (2) 怪我については、チームの責任において対処してください。
- ・ マナーについて
近年、指導、観戦マナーの低下が見られますので、以下ご理解とご協力をお願い致します。
 - (1) 相手チーム・選手を『敵』と言わない、言わせない。
 - (2) ベンチ外（観戦ゾーン等）からの指示をしない。
 - (3) 選手、指導者、レフリーの判断をリスペクトする。
 - (4) 公道、第三者の敷地からの観戦等、周辺住民への迷惑行為をしない。
 - (5) 会場内および会場周辺は全て禁煙とします。校内では車中においても禁煙です。
 - (6) テクニカルゾーンでのビデオ撮影、電話通話は禁止します。
 - (7) ゴミ等は各自で持ち帰るようお願いします。
 - (8) 遊具など、競技に必要なもの以外を使用しないでください。（選手以外の小さいお子様も含む）
- ・ 車両について
 - (1) 会場内、駐車可能台数は各会場の指示に従ってください。（大会指定の駐車票を提示してください）
 - (2) 超過の場合は近隣のコインパーキング等を利用し、商業施設等の無料駐車場の利用はおやめください。

11. 連絡、問合せ先

北習カップ実行・運営委員用メールアドレス：kitanaracup@gmail.com

<北習志野 FC 緊急連絡先>

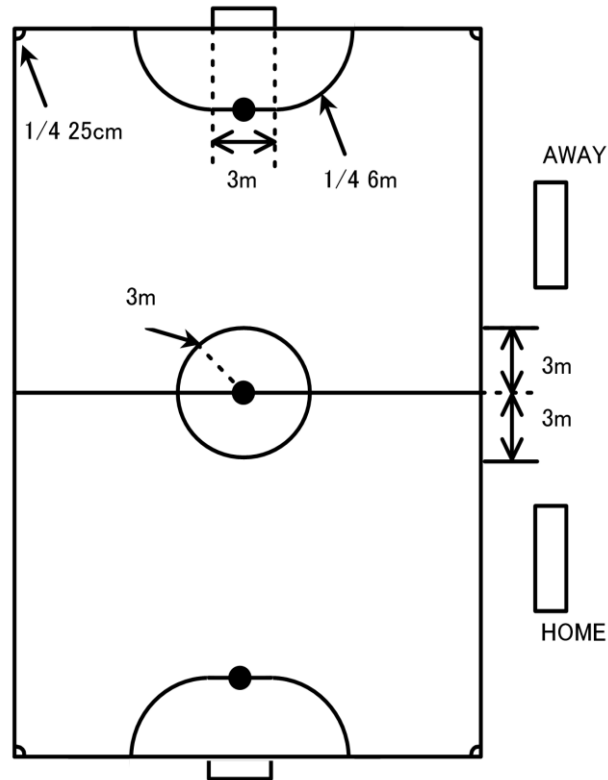
会長 兼 実行・運営委員長 岩橋 直也（いわはしなおや） 電話：080-7015-1627

実行・運営委員 坂口 泰行（さかぐちやすゆき） 電話：090-6527-8497

大会規定

1) ピッチ

- ・ 縦約 40 m、横約 25 m の長方形を目安とし、ゴールの大きさは幅 3 m、高さ 2 m とする。
- ・ ペナルティエリアは、ゴールラインから両ゴールポストの外側を中心に半径 6 メートルの 1/4 円弧を描き、その両端をゴールラインと平行な線で結び、これらとゴールラインによって囲まれた部分とする。
- ・ ペナルティマークはゴールラインの中央から垂直の方向に 6 メートル離れた地点とする。
- ・ コーナーアークは、半径 25 cm の四分円とし、コーナーフラッグは設けない。



2) ボール

- ・ 試合球はサッカー 4 号球とし、対戦チーム持ち寄りとする。

3) 競技者の数

- ・ 1 チーム 6 人（うち 1 人はゴールキーパー）とする。
- ・ 試合開始時に 1 チーム 4 人以上がコート内に入ることによって試合成立とし、3 人以下の場合は不戦敗とする。
- ・ 交代要員数および交代回数に制限は設けない。
- ・ 交代はタッチラインの中央に設けた交代ゾーンから、インプレー中、アウトオブプレー中にかかわらず、自由に何度でも行える。ただし、プレー中の選手が完全にコートを出てから交代選手が入ること。これに違反した場合は、その時にボールのあった地点で、相手側に間接フリーキックを与える。
- ・ ゴールキーパーが交代する場合は、アウトオブプレー中に、主審に申告の上、主審が試合を停止し、交代を行う。

4) 競技者のユニフォーム・用具

- ・ 対戦チームでのユニフォームの色調が類似する場合、番号入りのビブスの着用を可とする
- ・ ゴールキーパーはフィールドプレーヤーと異なるユニフォームを着用すること。（ビブス可）
- ・ 選手は必ずすね当て(シンガード)を着用すること。

- ・ スパイクの使用は基本的に可とするが、会場の指示に従うこと

5) 指導者ならびに審判員

- ・ 指導者
 - (1) 試合時にベンチ入りが可能な指導者数は 3 名までとし、うち指示が出来る指導者は 1 名までとする。
 - (2) プレーヤーの意思を尊重し、また、過度な大声での指示は控えること。
 - (3) 審判員の判断、決定を尊重すること。
 - (4) 審判シャツでのベンチ入りは禁止とする。
- ・ 審判員
 - (1) サッカーまたはフットサル 4 級以上の資格を有すること（本部に審判証を提示いただきます）。
 - (2) **審判服**を正しく着用し、ワッペンを着用すること。
 - (3) イエロー・レッドカード以外にグリーンカードを必ず携帯し、フェアプレーを行った競技者に対しては積極的にグリーンカードの掲示をしてください。

6) ルール

日本サッカー協会のフットサル競技規則に準ずる。（相違点、注記留意事項を以下に記す）

1 審判

- (1) 審判は主審、副審の 2 名で、タッチライン方式とし、双方とも笛を吹くことが出来る。
- (2) 主審は試合全体を管理することを目的とするためにベンチ逆側に位置し、副審はベンチ側に位置し選手交代時の管理を行う。
- (3) 主審・副審の役割
 - A) 主審：通常のレフリング行為、試合の時間、ベンチ逆サイドの管理
 - B) 副審：通常のレフリング行為、ベンチサイド・予備球の管理
- (4) 主・副審双方がジャッジを行うが、双方の判断が異なる場合、
 - A) フィールド中央部：主審の判断を尊重する
 - B) タッチライン付近：近いタッチ側の審判員の判断を尊重する。
 - C) 双方とも判断が難しい場合、試合を停止し、双方合意の上ジャッジする。
- (5) 試合前に本部にて審判打合せを行い、お互いの服装等のチェックも併せて行う事。
- (6) 審判員の判断は『尊重されなければならない』ことより、審判員が対戦チームから判定に対して直接異議・抗議を受けた場合は、本部に報告をしてください。対象チームに対しては大会本部にて対応させていただきます。

2 競技の開始

- (1) コイントスに勝ったチームが、キックオフまたはエンドを選ぶ。
- (2) キックオフから直接得点することはできない。
- (3) キックオフは明らかにボールが動いたときにインプレーとする。（前方に蹴る必要はない）

3 反則

- (1) 基本的にはサッカーの規則に準ずるが、他の選手に対するスライディング（スライディングタックル）は禁止とし、違反した場合は、相手側に直接フリーキックを与える（座位でのプレー含む）。
- (2) タックルではない単なるスライディング（シュートブロック・パスブロックなど）は認められる。
- (3) 自分のペナルティエリア内のゴールキーパーに関しては、不用意に、無謀に、あるいは過剰な力で行ったスライディング

でなければ認められる。

- (4) 再開時、守備側の選手は、プレー地点より 5 m 以上離れなければならない。また、守備側の選手の“壁”を形成した場合、攻撃側の選手はその“壁”より 1m 離れなければならない。
- (5) 守備側の選手が自分の側のペナルティエリア内で直接フリーキックに相当する反則を犯した場合は、相手側にペナルティキックを与える。また、ペナルティエリア内で守備側が間接フリーキックに相当する反則を犯した場合には、違反が起きた地点に最も近いペナルティエリアライン上から間接フリーキックを行う。
- (6) ペナルティエリア内で攻撃側が反則を犯した場合に守備側に与えられるフリーキックは、直接、間接にかかわらず、ペナルティエリア内の任意の地点から行う。
- (7) フットサル競技規則にある累積 5 ファールならびに第 2、10 mPK は本大会では適用しない。

4 キックイン

- (1) スローインの代わりにキックインで競技を再開する。キッカーはボールがピッチから出た位置のライン上に置き、完全に静止したボールを蹴ること（軸足位置は不問）。
- (2) ボールが明らかに動いたときにインプレーとする。
- (3) 再開時、審判はボールの静止を確認し、不静止の場合は手で置くなど静止を促すこと。
- (4) インプレー後、いずれの競技者にも触られず、キックインが行われた近いサイドのタッチラインから外に出た場合、やり直しでなく、相手のキックインより再開とする。
- (5) 2 度触りは、相手のキックインより再開する。
- (6) キックインから直接得点することは出来ない。

5 キーパースロー（ゴールクリアランス）

- (1) ゴールキックの代わりにキーパースロー（ゴールクリアランス）で競技を再開する（パント、ドロップキックはできない）。
- (2) キーパの手より離れた時点でインプレーとし、ノーバウンドでハーフウェイラインを越えてはいけぬ。
- (3) 投げる時に手からボールが離れる前に、ペナルティエリアからボールが出た場合はハンドリングの反則ではなく、キーパースローのやり直しを行う。（インプレー中はハンドリングとなる。）

6 ゴールキーパーのプレー

- (1) インプレー中にキャッチしたボールは、投げるか、蹴ることができ、ドロップキックで蹴った場合はノーバウンドでハーフウェイラインを越えてもよいが、投げたボールとパントキックで蹴ったボールはノーバウンドでハーフウェイラインを越えてはいけぬ。（越えた場合、センターライン上から相手チームの間接フリーキック）
- (2) ゴールキーパーが投げたボールが直接ゴールインした場合は得点を認めない。
- (3) ゴールキーパーからのスロー、リリース、キック等を故意に妨害した場合、反則とし、間接フリーキックより再開する。
- (4) ゴールキーパーへのキックによるバックパス（キックインを含む）はハーフウェイラインを超える必要なく、いかなる場所から何度でもバックパスを受ける事できるが、手で扱うことはできない。（手で扱った場合は、反則位置から最も近いゴールライン上から相手チームの間接フリーキック）

7 オフサイド

オフサイドの反則は適用しない。

8 退場

退場者があった場合には競技者を補充できる（シンビンは適用しない）。ただし、退場者はその試合と次の 1 試合に出場できない。

9 4 秒ルール

キーパースロー、フリーキック、キックインなどのプレーに対する4秒ルールは適用しないが、速やかに行うこと。ゴールキーパーの自陣内での足または手での保持・プレーに対する4秒ルールも適用しない。

10 外的要因に対する不正について

インプレー中のボールをベンチの選手、指導者、乱入した観客がボールに触れた場合、関与した地点より間接フリーキックより再開する。

11 不戦勝、不戦敗

原則として試合開始時刻に5分以上遅れた場合は不戦敗とする。この時、不戦勝チームの勝ち点は**3**、得点は**5**、不戦敗チームの勝ち点は**0**、失点は**5**とする。

以上